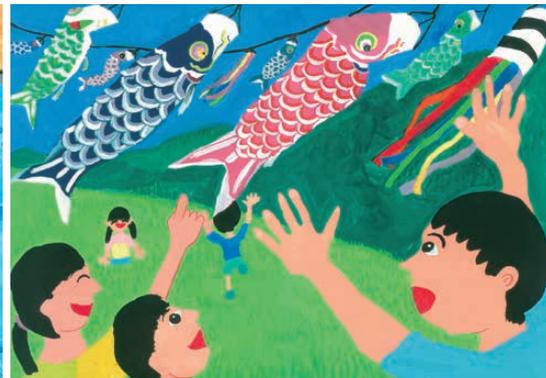
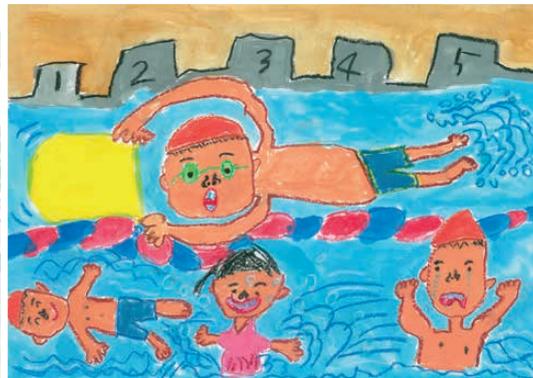
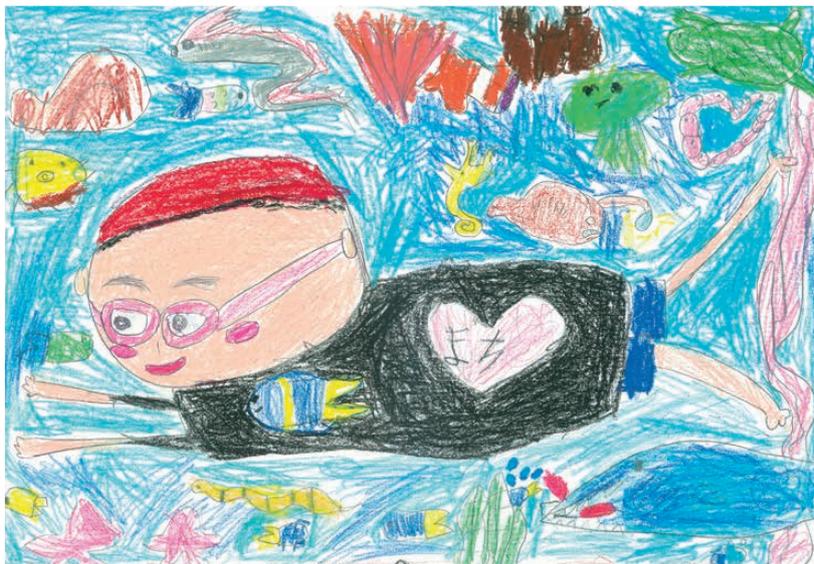


# 教育と文化

No.130

令和4年11月

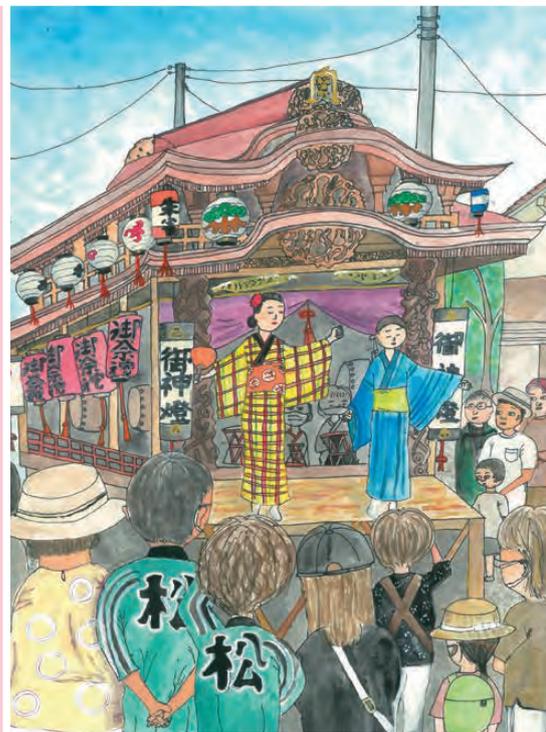


## 令和4年度「みかわ彩発見絵画コンクール(春・夏の部)」 最優秀作品受賞者

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1年 幸田・坂崎小 村松 真智 (上段右) | 4年 豊橋・吉田方小 小川 有宇 (中段右) |
| 2年 蒲郡・竹島小 宮田 都羽 (中段中) | 5年 岡崎・梅園小 永見 晴 (下段)    |
| 3年 田原・童浦小 小林 靖典 (中段左) | 6年 豊橋・二川南小 紅林 琉奈 (上段左) |

## Contents

- |                                     |                 |
|-------------------------------------|-----------------|
| 2 巻頭言                               | 9 教室の窓辺         |
| 4 三河の文化を訪ねて                         | 10 特色ある教育活動     |
| 6 <b>特集</b> 文振の刊行物<br>デジタル化への取り組み 2 | 11 令和4年度個人研究助成  |
| 8 刊行物の活用紹介                          | 15 研究成果論文提出者の紹介 |
|                                     | 16 文振だより        |





## 巻頭言

# いつも心に 太陽を！

— 三河の子どもたちの輝く未来のために —

公益財団法人愛知教育文化振興会常務理事 酒井 敬

「父さん、魚をつかまえたよー！」  
8月20日、岡崎市ホテル学校のわきを流れる鳥川で、本年度2回目の「ネイチャーウォッチング」を実施しました。網を手に川の中を跳ね回り、太陽のようにキラキラ輝く子どもたちの姿は、とても微笑ましく、心温まるものがありました。

この「ネイチャーウォッチング」は、親子で楽しむ自然体験活動として、平成29年度から実施し、今年で6年目となります。参加者をA・B2グループに分け、それぞれ年間3回、野鳥観察や化石発掘、天体観測等の活動を行います。4月に募集をして、抽選で選ばれた60組の家族に参加していただいています。専門家の講師によるお話や学生ボランティアとのふれあいも好評で、参加を希望する家族数は年々増え、本年度は1600組を超える応募がありました。すべての参加希望家族の期待に応えることはできていませんが、三河の子どもたちの自然や家族、周りの人々との記憶に残るふれあいの機会として、これからも大切にしていきたいと考えています。



ネイチャーウォッチングの様子

**愛知教育文化振興会の歴史と取組**  
**三河の子どもたち、先生方のために**  
愛知教育文化振興会は、三河の先生方が三河の教育文化の向上発展に寄与するために、自主的に立ち上げ、昭和32年に産声をあげました。奇しくも私自身が生まれた年でもあり、今年で65周年を迎えます。

当初は、「ことばのきまり」「夏・冬休み日誌」など、11品目の刊行物を発刊しており、三河で生まれ育った私自身も、「ことばのきまり」や「夏・冬休み日誌」で勉強した記憶があります。現在は、三河のすべての小中学生が使っている「ことばのきまり」をはじめ、42品目（小学校23・中学校19）の刊行物を、三河各地から選ばれた約480名の先生方の手で編集し、発刊しています。

また、文化振興会では、三河各郡市の特色ある教育活動や全小中学校の現職研修等に対して、「郡市教育・研究助成」を行っています。併せて、小中学校の先生方が目の前の子どもたちのために実践する優れた教育研究に対する「個人研究助成」も行っています。その他にも、学校教育の振興に寄与する教育研究団体への「団体研究助成」や、「学校教育ボランティア助成」、「教育図書出版助成」など、三河の子どもたちや先生方にとって有益となる各種助成を行っています。

さらに、三河の子どもたちの情操が一層豊かになることを願って、平成23年度から「かきぞめコ

ンクール」、平成29年度から冒頭で紹介しました「ネイチャーウォッチング」、平成30年度から「みかわ彩発見絵画コンクール」を実施しています。

### 時代を見据えた新たなチャレンジ 各種刊行物のデジタル化

子どもたちや先生方を取り巻く昨今の教育環境の激変ぶりは、教育現場を離れて久しい私にとって、目を丸くして驚くことばかりです。従前の教育課題に加えて、新型コロナウイルスにかかわる対応や児童生徒用タブレット導入等による学校ICT環境の変化への取組など、子どもたちを目の前に日々尽力されている先生方に深く敬意を表します。こうした時代の変化の中、文化振興会としても、子どもたちや先生方に提供する刊行物がよりよいものになるよう、鋭意努力し創意工夫してまいります。

令和2年度には、文化振興会として初めて「英語の学習」と「親と子の自然観察ガイド」にQRコードを掲載し、ネイティブの会話や虫の声を聴くことができるようにしました。その後も、各種刊行物にQRコードの掲載を増やし、文化振興会スタジオで撮影した動画や外部リンク情報などを視聴できるようにしてきました。令和4年度版には、24刊行物で857箇所QRコードを掲載し、子どもたちの学びに一層役立つものになるよう、内容の充実を図っています。

また本年4月からは、13刊行物で教師用PDF版の配信を行い、先生方の教材研究や教室での電

子黒板等への提示などに活用できるようにしました。教師用PDF版の各学校への配信は、今後も加速させていきます。

さらに令和6年度には、「国語の学習」などの学習類や「数学演習」などの演習類のすべてに、自動採点や観点別集計などができる「デジタル採点支援システム」を付加させて提供する計画です。このシステムは、先生方が子どもたち一人一人の学びの様子を把握する一助となると考えています。さらには、採点業務や成績処理作業の軽減につながり、子どもたちとふれあう時間を生み出すことを期待しています。本格的導入に向けては、郡市ごとに小中各1校を選定し、本年度から令和5年度にかけて、実証研究を進めていく予定です。

### 「いつも心に 太陽を！」 明るく、強く、温かく

いつでもどんな時も、常に前向きにものごとをとらえ、明るく元気よく温かい心でまわりに接していくことが、何より大切です。

明るく、元気よく、そして温かい人であり、教師でありたい。  
子どもたちに寄り添う教師として、よりよい環境でありたい。

「光」＝明るさ・笑顔・瑞々しい感性・気づき  
「力」＝活力・創造力・実行力・人間的魅力  
「熱」＝温かさ・ぬくもり・情熱・教育愛  
「光」・「力」・「熱」を、いつも持ち続ける

太陽のようになりたい。



至誠と献身、純愛の人

# 「江崎邦助巡査」とその妻「じゅう」

田原市立衣笠小学校 立花 英夫



江崎邦助巡査

衛生知識の乏しかった人々は、大挙して石を投げたり竹やりで脅したりするなど激しく抵抗し、「ただちに出ていけ」と迫りました。

人々は、コレラにかかったことがわかると「蔓延を恐れて毒を飲まされる」「息を引き取らないうちに棺桶に入れて焼き殺される」といったデマを信じていました。結果、江崎巡査たちを村へなかなか入れさせなかったというわけです。生命の危険も感じられるほどの状況下において、江崎巡査は自己の危険を顧みず誠意をもって患者や家族、近所の人たちに消毒がいかに必要なことなのかを、情理を尽くして懇々と伝え続けました。頑として応じることのなかった一同も、若い江崎巡査の三日間にもわたる誠心誠意からの熱情に動かされて、消毒の実施を十分に承諾したのでした。江崎巡査たちは村の中に入り、夜も眠らず働き続けました。消毒も一段落した22日、江崎巡査たちは報告のために田原分署へ戻ることとなりました。途中赤羽根村若見地区（現在の田原市若見町）付近にさしかかったところで、にわかに激しい吐き気を起こし、自力での歩行も困難になりました。運よく近くにいた人力車に乗り、帰りを急ぎました。苦痛に耐えて加治村稲場（現在の田原市加治町・衣笠小

「あなたは田原の人たちが本当に大切なのですね……。ここ田原は邦助さんにとつて、もう一つの故郷なんですね。ああ、夕日の向こうに、あなたのふるさと鳥羽が見えますよ」

これは田原市立衣笠小学校・学校劇「江崎巡査物語」の最終場面における江崎巡査の妻、じゅうさんの台詞です。



劇「江崎巡査物語」 妻じゅう 独白シーン

衣笠小学校では開校2年目（1906年）の学芸会での初演に端を発し、開校10周年目からは毎年、学校劇として子供たちが江崎巡査夫妻のことを30年近く演じ続けてきています。田原の人とまちを愛し、至誠と献身、純愛に生きた、その遺徳を子供たちに伝えていきます。

江崎邦助巡査は、文久元年（1861年）三重県答志郡鳥羽村（現鳥羽市）で生まれ、明治17年（1884年）に愛知県巡査となりました。その明るくて素直な性格そのままに職務一筋に生き、同僚や周囲の人々から愛されたといえます。明治19年24才の時、愛知県額田郡桑谷村（現岡崎市額田町）出身の上司の紹介で、平岩じゅうさん（当時18才）と結婚しました。その後、豊

学校校区内）まで戻りましたが、病状はさらに悪化、激しい嘔吐に車上にいることさえ、ままならなくなりました。コレラにかかったことを自覚した江崎巡査は、人通りの多い県道を避け、60メートルほど離れた人家のない林の中に入り車を降りると、車夫に田原分署と田原役場への連絡を依頼しました。

その日午後、連絡を聞きつけた分署の上司・同僚、役場の人、妻のじゅうさんたちがかけつけ看護にあたりました。その夜、真性コレラと診断され、田原への移送と治療看護の指示が出ました。ところが、江崎巡査は「私はとても助かる見込みはありません。田原の街へ行っても伝染病院の施設もなく、街のことで家屋も密集していますから、すぐに大勢の人に伝染させ、大変なことになるでしょう。また街へ入るだけで



江崎巡査の行動

町民は不安と恐怖にかられて混乱することでしょう。私は国民の保護と公共の福祉にあたる警察官です。職務に斃れるのは覚悟の上です。ここから先には参りません」と、頑として田原入りを承知しませんでした。松林に臨時の掘立小屋を建ててもらい、そこに留まることとなりました。人家も遠く、狐や狸が出没するようなところで「私だとえ死んだとしても夫のそばを離れることは決してできません」と言っ、じゅうさんは決死の覚悟で夫の看護を始めました。

じゅうさんの不眠不休の看護の甲斐もなく、翌23日午後、コレラのため、25才の若さで江崎巡査は息を引き取りました。時に梅雨は山野に降り注ぎ、その悲嘆の涙も乾かぬうちに、じゅうさんも感染し、倒れてしまったといえます。夫の遺志を守り田原の我が家へ帰ろうとせず、激しく苦しんだ末に、26日午後、同じ小屋でなくなりました。渾美半島を走る山々の彼方に落ちようとする夕陽とともに夫の後を追うかのようなあつたと記録に残ります。時に19才でした。（※ここが先述の劇の最終場面に当たる）この若い夫妻の清く献身的な生涯と悲劇的な最期に、住民はみな涙を惜しまなかったと、これも記録に残っています。

二人の献身的・犠牲的な働きで、その後、田原からはコレラ患者が一人も出ませんでした。

現在、加治町稲場のコミュニティ運動場の傍らに江崎巡査夫妻の殉難の石碑が建っています。また蔵王山権現墓地には夫妻の墓があり、命日の6月23日に毎年追悼法要と墓前祭が行われ続けています。

田原で偉人といえば、修身の教科書にも教材として掲載されるほど著名な「渡辺華山」が挙げられます。田原中部小学校では伝統的に華山劇としてその人となりを子供たちが演じています。田原中部小より分離新設された「衣笠小学校」。開校当時、「華山劇」に並ぶような学校劇の題材はないかと職員で激論したことも記憶しています。開校2年目、愛知県道徳教育研究会、3年目に文部省指定道徳教育研究発表会が開催された折、目玉として採用されたのが、劇「江崎巡査物語」でした。六年の総合单元的な道徳学習の時間を進める中で「江崎巡査の生き方やコレラ、



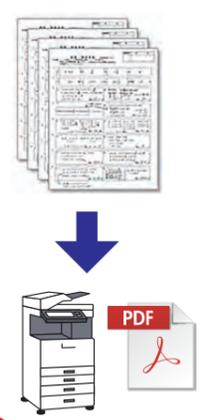
江崎夫妻のお墓から望む田原の風景

当時の田原に学ぶ」や「道徳教材・江崎巡査夫妻」の学習が組み込まれています。与えられた脚本劇を演ずるのみでなく、その事績を学ぶ中で、自分たちで脚本をつくり替える学習も展開しています。共感的に夫妻の劇を演じることで、夫妻の敬虔な心は、今なお学びの中で子供たちの心を耕し涵養し続けていくのです。

【参考文献リスト】  
『江崎巡査夫妻の事蹟』（江崎巡査夫妻遺跡顕彰会 編 1975年）  
『田原町史 下巻』（田原町史編纂委員会 田原町教育委員会 1978年）  
『コレラと巡査』『愛知県の民話』（日本児童文学者協会 編 借成社 2000年）  
アニメ「風よ、風よ」「ほんとうに泣ける話 VOL.15」（永矢洋子 著 ぶんか社 2004年）  
『江崎巡査』『もも』ばあちゃんのおはなし（山田もと 著 郷土記録冊子・田原市教育委員会 2005年）

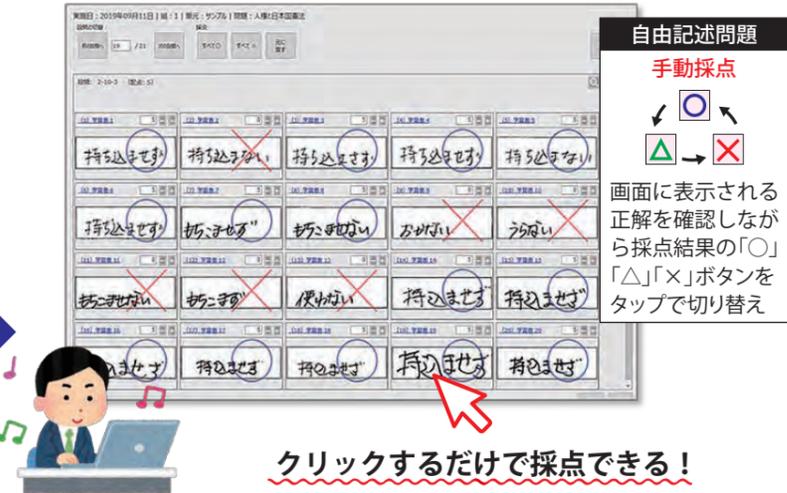
# 『デジタル採点支援システム』ってどんなもの？

**Step 1**  
子どもたちから集めた解答用紙をスキャナでPDF化して取り込む。



**全員の解答を設問毎に一覧表示！**

**Step 2**  
表示された解答をクリックするだけで採点が可能。  
教師判断で部分点を入力することも可能。



**クリックするだけで採点できる！**

# A ① 子ども理解の一助として

「正答誤答表」から、一人一人の到達度を把握し、補充問題や発展問題を準備することで、個別最適化の学習に活かすことができます。また、学級の傾向を把握して、修正授業やその後の指導計画にも活かすことができます。

# ③ 定期テストにも対応

解答枠等を自分で設定することで、中間・期末テストなどの採点処理もできます。具体的には、選択問題の自動採点、記述問題の串刺し採点、観点別集計等ができます。

# ② 採点業務や成績処理業務の効率化！

本法人発刊の学習類(小学校)・演習類(中学校)には解答枠の設定が予め用意してあります。先生方は、スキャナで子どもたちの解答用紙を読み込めば、選択問題は自動採点、記述問題は串刺し採点ができ、採点時間の短縮が図れます。合計得点や観点別得点の集計も自動化されます。

# ④ 各種アンケートにも対応

マークシートの作成・読取・集計機能も付加されています。テスト採点だけでなく、アンケートなどの集計にも活用できます。



## 文振の刊行物 デジタル化への取り組み 2

愛知教育文化振興会では、令和6年度から、「デジタル採点支援システム」を三河地区の各小中学校へ提供できるよう、本年11月から実証研究に入ります。

本システムのもつ統計機能は、個別最適化に寄与するデータを素早く提供することができます。また、採点業務の効率化等によって生み出された時間を有効活用できます。

## 実証研究校決まる！

実証研究を通して本システムの問題点を明らかにし、それを解決していきながら令和6年度からの導入に備えます。正式導入後、実証研究校には地区と文振をつなぐ存在になっていただければと考えています。

<実証研究校一覧>

地区	学 校 名	地区	学 校 名
岡 崎	岡崎・井田小 岡崎・矢作北中	幸 田	幸田・幸田小 幸田・南部中
碧 南	碧南・西端小 碧南・中央中	豊 橋	豊橋・豊小 豊橋・青陵中
刈 谷	刈谷・東刈谷小 刈谷・刈谷南中	豊 川	豊川・小坂井西小 豊川・御津中
豊 田	豊田・四郷小 豊田・若園中	蒲 郡	蒲郡・塩津小 蒲郡・蒲郡中
安 城	安城・安城中部小 安城・安城南小	新 城	新城・東郷西小 新城・鳳来中
西 尾	西尾・一色西部小 西尾・幡豆中	田 原	田原・田原中部小 田原・東部中
知 立	知立・八ツ田小 知立・竜北中	北 設	東栄・東栄小 設楽・設楽中
高 浜	高浜・高取小 高浜・高浜中	附 属	附属岡崎小 附属岡崎中
みよし	みよし・三吉小 みよし・南中		

## 利用者の声

本システムをすでに導入している地区の先生方から、「デジタル採点支援システム」の手応えを感じる声が届いています。

自動で作成された「正答誤答表」を、個々のつまずきの指導に生かしています。エクセルデータとして出せるので、転記ミスがなくなりました。

「紙をパラパラめくりながらの採点」や「結果を観点別に直しての手入力」の手間がデジタルで一気に解決され、大幅に時間短縮できました。また、採点や集計のミスがなくなりました。

採点時間が半減し、子どもたちと過ごす時間が増えました。

記述式問題は全員の解答を画像表示し、串刺し採点できるので、解答を比較しながら部分点などの判断が迷わずにできます。

「夏休み日誌」の活用法

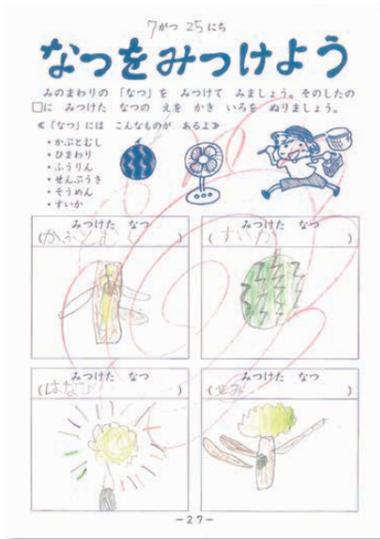
夏休み日誌を活用して  
夏休みも学び続ける

蒲郡市立塩津小学校 教務主任  
山本 重美子

本校は、全校児童455人のうち、外国籍児童約50人、特別支援学級在籍児童約40人と、個性豊かな子どもたちが「ともに学び、ともに生きる」といったダイバーシティ&インクルージョンを地でいく学校である。

体験を伴う生活科の学習

およそ40日間の長い夏休み。子どもたちの学びが途切れないように、本校では「夏休み日誌」を活用している。国語・算数など主要教科の復習だけでなく、例えば1年「夏休み日誌」には「なつをみつけよう」「なつとなかよし」といった生活科の体験活動を伴う学習ができるページも準備されている。



夏休み明け9月の生活科の学習は、このページを活用し、「みつけたなつのはっぴょうかい」からスタート。子どもたちは、自分の見つけた夏を得意げに発表するとともに、友達の見つけた夏にも興味津々。

「でも、あれ？もうアブラゼミはいないね」「今は、ツクツクボウシが鳴いているよ」と、季節が少しずつ進んでいることにも気づいていった。

チャレンジ工作展示ルームで遊ぼう!!

「夏休み日誌」には、2年「ジャンプガエル」、4年「ビューン！ロケット！」など、各学年に合わせた図画工作の学習ページも掲載されている。本校では、これらの作品を夏休み明けに多目的教室に展示している。また、ジャンプガエルなどは「おためしスペース」で自分の作品に限って遊ぶことができるようにしている。なかには、友達の作品に刺激を受け、「もつとよく跳ぶカエルをつくってきたいよ」と、身近で扱いやすい材料を使い、改良を重ねて作り直す子もいる。



個の学習レベルに合わせた日誌をチョイス!!

本校に在籍する個性豊かで多様な子どもたちに、夏休み中も自分にあった学習を継続させることが大切である。そこで、「夏休み日誌」の見本が届くと、担任は該当学年だけでなく、他学年の日誌にも目を通し、「この子に一番合った学習ができる日誌」を考える。もちろん、本人と保護者の意向が第一であるため、手紙や電話等で何度も家庭とやり取りし、使う日誌を決めていく。そのため、ある子は「下学年」、ある子は「星本」と、注文は多岐にわたる。そうすることで、本校の子どもたちは、「自分に合った学習」を夏休み中も継続している。塩津小版「個別最適な学び」である。



「夏休み日誌」の購入について、希望されるものに○をつけてください。

- ① 協力学級と同じ「夏休み日誌」にチャレンジする。
  - ② 下の学年の「夏休み日誌」にチャレンジする。
  - ③ 特別支援用の「夏休み日誌」にチャレンジする。
- 三段階のレベルがあります。
- ④ 「夏休み日誌」は購入しない。

教室の窓辺  
AI型教材を活用した  
効果的な学び合い  
学び合えば 学び合うほどいい

豊田市立元城小学校 教諭 羽根 詩絵里

本校は、令和元年からプログラミング教育を取り入れた授業づくりについて、研究しています。学習用タブレット(iPad)が導入されて3年が過ぎ、子どもたちにとってより身近な学習ツールとなつていきます。さらに、今年度から高学年の国語・社会・算数・理科・英語、中学年の国語・社会・算数・理科、低学年の国語・算数の各教科でAI型教材が導入されました。本年度、私は6年生を担当しています。理解や定着の個人差に対応するために、教科指導では個別最適な学びと協働的な学びを適切に組み合わせる必要性を強く感じています。そこで、一人一人に最適化された学習と児童同士が学び合う協働的な学習を目指して、AI型教材を活用しています。6年算数科におけるAI型教材を効果的に活用した例を2つ紹介します。

1つ目は、個別最適な学びの場での活用です。本来、一人一人の学力に合った問題に取り組むことが理想ですが、教師が毎時間準備することは大変です。それを得意とするのが、まさにAIです。瞬時に正誤判断をし、適切な類題を次々と出題することで、知識・技能の定着をサポートします。

その間、教師は教師用タブレットで児童の学習状況をリアルタイムに確認し、的確なタイミングで必要な声掛けをすることができます。さらに、テンポよく解き進められるため、かなりの量の演習問題を解くことができます。自分のペースで問題を解くことができ、間違えても類題が次々に出題されるので、以前と比べ内容の定着度が増したように思います。さらに、積極的に集中して取り組む様子から、学習意欲も向上していることが分かります。

2つ目は、子ども同士の学び合いの場での活用です。私は算数科を指導する際、教え込むティーチング的な指導が多くなりがちでした。今では、AI型教材を活用し、グループワークを多く取り入れています。AI型教材には、様々な傾向の問題が数多く搭載されており、協働的な学習に資する問題を選択することもできます。タブレットを通して教師から配信された問題を解き始めた子どもたちの中から、「ここまでなら、求められるよね」「じゃあ、Aを使ってBを求めるにはどうする?」といった声が聞かれ、学び合っていることが分かります。学び合いの場において、この4年間研究を継続してきたプログラミング教育で培った論理的にかかわる力を活かし、見通しをもち筋道を立てて考察しようとする子どもたちが育っています。

学習用タブレットを学び合いの手段の一つと考えることで、子どもの主体性を中心に据えたコーディング的指導を意識した授業づくりができるようになります。今後も自ら学び、探究したくなる授業づくりのために、AI型教材を効果的に活用していきます。



配信されたAI型教材で学び合う子どもたち

豊田市教育委員会からプログラミング教育の研究指定を受け4年目になります。プログラミングの学習に加え、児童が思考スキルを活用しながら論理的にかかわり合う授業づくりを進めてきました。

今年の7月より、学習用タブレットにAI型教材が導入されました。習得段階では、個に応じた学びの繰り返しにより、理解できるまで根気強く問題解決する姿が多くみられるようになりました。活用段階でもAI型教材を使い、児童は協働的に学ぶ確かさを感じ取りつつあります。こうした資源を有効に活用し、ハイブリッドな学びを追究しようとする羽根教諭の熱意は児童に十分伝わっています。

(校長 岩本 雅人)

# 特色ある教育活動

「郡市教育・研究助成」を生かした取組紹介

ともにつくる

「いのち」輝く未来を

## 第23回教育展

安城市教育研究会 副会長  
安城市立安城南部小学校長 杉浦 和明

安城市教育研究会では、「安城市の学校教育の堅実なあゆみを、創意と工夫によって、鮮明に、具体的に発表し、市民とともに、より確かな安城市の教育の姿を求め」ことをねらいとして、五年に一度、教育展を開催しています。

### 教育展のはじまり

昭和35年に第一回の教育展が開催されました。当時の記録に、教育展開始の趣旨が次のように述べられています。

「安城市の文化祭には、今まで図画、習字のみ協賛出品してきた。しかし、本年度より新しい教育や教師と子どもの願いを、広く市民に理解していただく場とする。コンクールとしてではなく、教育実践としての実物や事実による発表の場とする」  
「ここには、文化祭の展覧会を従来の図画・習字展から脱皮させ、内容をさらに充実させることで、

新しい教育を市民に理解してもらうための、教育公開の場としたいという意図がありました。

### 第23回教育展に込めた願い

令和4年に市政70周年を迎えた安城市は、「ともにかなえる」というテーマを掲げ、様々な記念事業を行っています。その理念は、SDGs（持続可能な開発目標）であり、その実現に向けてできることをともに考え、実行していくことを目指しています。さらに、コロナ禍にある現在、安城市は、「幸せつながる健康都市」の具現化に向け、新たな生活のあり方も模索しています。

このような状況の中、安城市教育研究会では、子どもたち一人一人に、今とこれからを生きる主人公として、いのち輝くような未来を切り拓く力を育てたいと考えました。そこで、他者と支え合いながら、元気いっぱい、夢いっぱい、たくましく生き抜いてほしいという願いを込め、教育展のテーマを「ともにつくる『いのち』輝く未来を ―元気いっぱい 笑顔いっぱい 夢いっぱい―」としました。

### 本年度の取り組み

今回の教育展は、ウィズコロナのもと、安城市産業文化公園（デンパーク）と学校・ホームページを組み合わせたハイブリット型で開催しました。

10月29日(土)、30日(日)に、デンパークにおいて、教科・領域部会の展示と参加・体験コーナーを実施しました。また、水のステージでは、小中学生のクラブ活動や部活動の発表、特設ブースでは、各学校の取り組みや生き生きと活動する児童生徒の映像を流しました。児童生徒個々の作品については、各学校に展示するだけでなく、本年度から立ち上げた安城市教育研究会のホームページにもアップしました。

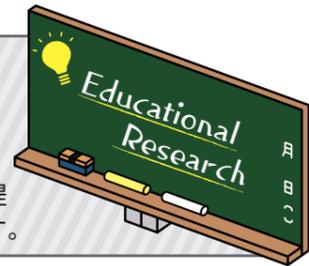


校内展示の様子

作品を参観した保護者からは、「全学年の作品を、一度に見ることができてよかった」「子どもたちの作品からは、力強さと夢を感じた」「ホームページを見れば、他の学校の作品も見ることができ、とても参考になった」などの感想が寄せられました。

本年度の取り組みから、安城市の学校教育の成果を、鮮明に、具体的に、広く発表し、安城市子どもたちの可能性や素晴らしさを、より多くの方に伝えることができました。コロナ禍だからできないのではなく、創意工夫により新しい教育展の形を模索しました。

昭和35年に蒔いた一粒の種が、また大きく成長し、未来に向けてさらに伸びていくことが期待できる教育展となりました。



# 令和4年度 個人研究助成

本法人では、先生方の研究を支援しています。本年度は、1年次研究、2年次研究、3年次研究を以下の先生方に助成しました。3年次研究を終えられて、研究成果論文を提出された先生方を対象に、最終審査会を行い、来年2月に優秀論文の表彰式を開催します。

## 〈1年次〉(200名)

研究領域	郡市	学校名	氏名	
国語(小)	岡崎	梅園小	大谷 哲平	
	岡崎	梅園小	川口 真生	
	岡崎	本宿小	園田 龍	
	岡崎	常磐南小	山口 真実	
	岡崎	六ツ美西部小	山中 隼	
	岡崎	豊富小	川合 由華	
	碧南	大浜小	島 萌加	
	豊田	童子山小	生田和可奈	
	豊田	根川小	若山 芽生	
	豊田	石畳小	和田 知浩	
	安城	安城北部小	三宅 杏奈	
	安城	二本木小	澁谷 裕亮	
	西尾	西尾小	星野 梨奈	
	西尾	花ノ木小	新垣 咲良	
	西尾	室場小	岩間みずず	
	西尾	一色東部小	深津 美穂	
	知立	知立小	金丸 優子	
	幸田	坂崎小	北村 武瑠	
	幸田	坂崎小	北山 卯月	
	幸田	中央小	神谷 千尋	
幸田	深溝小	梅村 珠実		
豊橋	栄小	川島 智保		
豊川	赤坂小	山本 真衣		
蒲郡	蒲郡東部小	富樫 莉子		
蒲郡	塩津小	奥村 彩花		
国語(中)	岡崎	矢作中	犬塚 彩奈	
	岡崎	竜南中	岩川 皓司	
	豊田	朝日丘中	平 真希	
	安城	安城南中	森田 知里	
	西尾	福地中	高島 望	
	西尾	吉良中	野口 翔太	
	豊橋	南陽中	河村 道子	
	北設楽	設楽中	藤原 崇弘	
	岡崎	梅園小	福井 葉奈	
社会(小)	岡崎	大門小	田中章太郎	
	岡崎	豊富小	中西 悠	
	碧南	棚尾小	鈴木津佳沙	
	豊田	山之手小	石原 英幸	
	安城	桜井小	佐藤 将義	
	西尾	鶴城小	杉浦 圭	
	西尾	横須賀小	森宗 利之	
	社会(小)	高浜	翼小	多田 翔哉
		みよし	北部小	播摩 淳一
		蒲郡	中央小	鈴木 暁之
		田原	赤羽根小	小久保 将
		社会(中)	岡崎	常磐中
岡崎			翔南中	杉山 彩
西尾			寺津中	内田 黎生
新城			八名中	丸山 滉介
田原			赤羽根中	藤原秀一郎
算数			刈谷	かりがね小
		豊田	石畳小	太田 勝貴
		安城	安城西部小	寺窪 歩騎
	安城	錦町小	石川みさこ	
	安城	桜井小	加藤 昌孝	
	安城	丈山小	高嶋 菜由	
	西尾	花ノ木小	角谷 真輝	
	西尾	鶴城小	西山 友理	
	西尾	一色中部小	坂下あさひ	
	西尾	一色西部小	鈴木 将矢	
	西尾	横須賀小	畔柳百合枝	
	西尾	幡豆小	長沼 莉星	
豊橋	岩西小	島岡 廉		
北設楽	田口小	内藤 友理		
北設楽	豊根小	米良寿々乃		
数学	岡崎	甲山中	山本 将司	
	岡崎	南中	尾崎 絢香	
	岡崎	竜海中	江口 京弥	
	岡崎	常磐中	内田 沙紀	
	岡崎	六ツ美北中	国分 貴寛	
	豊田	小原中	上野 浩平	
	安城	安城南中	神谷 浩介	
	安城	東山中	川島 武流	
	安城	安祥中	松本 涉夢	
	西尾	西尾中	平野 拓哉	
	西尾	東部中	竹内はるな	
	みよし	南中	有井 達哉	
みよし	南中	近藤 晃弘		
蒲郡	塩津中	石原 佳奈		
新城	千郷中	梶村 清徳		
理科(小)	岡崎	井田小	辻本 瑞季	
	岡崎	六ツ美南部小	船橋 拓磨	

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
特別支援教育 (中)	岡崎	常磐中	安達 佳代
	岡崎	常磐中	原田 康司
	豊田	猿投中	酒井 恵子
	西尾	平坂中	加藤 洋介
総合的な学習 (小)	岡崎	生平小	岡 千晴
	豊田	東広瀬小	林 元気
	豊田	石畳小	羽根田真衣
	安城	安城東部小	森下 夏帆
	安城	新田小	谷口 弘花
	西尾	西野町小	樋口 充洋
	豊橋	栄小	鈴木 伊織
蒲郡	三谷東小	小泉 辰十	

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
総合的な学習 (中)	岡崎	新香山中	藤淵 俊旭
	豊田	浄水中	松井 秀和
情報教育(小)	岡崎	岡崎小	南 健太郎
	安城	桜井小	太田 真生
	豊橋	栄小	惣ト 雅史
特別活動(小)	岡崎	井田小	中根 佳恩
	豊田	中山小	宇都木俊志
	幸田	中央小	長井 稜太
特別活動(中)	岡崎	常磐中	宮澤 元紀
その他(中)	西尾	寺津中	築樋はるか
	幸田	南部中	織田 駿

## ● 1年次申請の選考を終えて ●

### 審査委員会副委員長

本年度の個人研究助成の1年次申請は、237名の応募があり、その中から200名を助成対象者として選考しました。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、学校生活に多くの制約があるにもかかわらず、研究実践を真摯に進められている先生方に敬意を表します。

今、学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を具現化する取組が求められています。また、タブレットをはじめ、ICTを活用した様々な実践が模索されています。さらには、学校改革の流れの中で、授業の在り方も変わろうとしています。未来を見据え、子供の学び方改革を進めなければなりません。

選考審査において、気づいたことを次に述べます。研究実践のさらなる推進や、2年次申請の参考になれば幸いです。

- ・学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」に焦点化した取組の申請が多くみられました。研究主題、ねらい、仮説、手立てを明確に結びつけて論述することで、説得力のある申請書になります。
- ・地域の特性を生かしたり、受け継がれている伝統的な実践に新たな視点を加えたりするなど、多様で特色ある取組は貴重です。3年間を見通して構想し、1年次の研究内容を具体的に示す必要があります。
- ・今日的な課題を取り上げた取組や、ICTを活用した取組などは、その成果を期待させられます。
- ・実績報告書を書くときに大切にしたいのは、子供の実態を的確に把握し、どんな手立てが有効なのかを十分に吟味することです。手立てが子供の学びと結びついているかを検証しながら、研究実践を進める必要があります。

## <2年次>(50名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
国語	豊田	童子山小	池田 明梨	『問いづくり』や友達との意見交流を通して、自ら読みを深める子の育成
	豊田	梅坪小	江波 蒔生	互いの話に関心をもち、適切な言葉を使ってコミュニケーションを図れる子どもの育成
	西尾	室場小	安部 那葉	体験活動を通して書きたいことを進んで見付け、伝える相手を意識して、より詳しく書こうとする子の育成
	知立	猿渡小	山田 啓介	ICT機器の活用によって、物語への理解を深める読みの指導
	蒲郡	形原小	柴田 春菜	自分の考えと友だちの考えを見つめ、自分の考えを深める子の育成
社会	岡崎	甲山中	鈴木 慶輝	自己の課題を認識し、対話を通して自分の思いを深め自分の思いを分かりやすく文章に書く生徒の育成
	岡崎	常磐南小	鈴木 康平	「仲間」とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす子どもの育成
	岡崎	大樹寺小	星野 智史	社会的な見方・考え方を働かせながら、主体的に問題解決を図る児童の育成
	豊橋	磯辺小	瀬野尾大智	地域教材に学び、よりよい未来を主体的に考えようとする子の育成
	田原	衣笠小	岡田 泰輔	仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業
	田原	伊良湖岬小	津田 将吾	地域の人・もの・ことと関わることで、主体的・対話的で深い学びを引き出す社会科学習
	岡崎	甲山中	原田 洋輝	仲間とかかわり合い、よりよい社会づくりへの参画を目指す
算数	豊田	豊南中	尾関 美咲	社会的な見方・考え方を成長させ、社会的事象を多面的・多角的に捉えられる生徒の育成
	豊田	前林中	西澤 朋気	自然環境を中核とした地域的特色を多面的・多角的に考察する生徒の育成
	岡崎	城南小	濱中 利矩	数学的な見方・考え方を育みながら、問題解決していく授業
	豊田	梅坪小	軸丸 倫行	算数の授業におけるソフトウェア活用
	安城	桜井小	吉本 未希	友達と学び合うことが楽しいと感じ、自ら進んでかかわり合おうとする児童の育成

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
理科(小)	刈谷	小垣江小	中野 弘貴
	安城	里町小	吉武 優志
	西尾	西尾小	神谷 健人
	西尾	福地北部小	杉浦 惇希
	西尾	三和小	稲垣 聡乃
	西尾	一色中部小	今川 智生
	豊橋	鷹丘小	伊藤 隼太
	蒲郡	蒲郡東部小	羽田 彩乃
	蒲郡	三谷東小	加藤 雄
	理科(中)	岡崎	城北中
岡崎		常磐中	大久保仁志
岡崎		矢作北中	田中 亮次
岡崎		翔南中	松井 昭憲
豊田		若園中	中林 将大
西尾		鶴城中	牧 幹也
幸田		南部中	佐原 尚樹
岡崎		岩津小	加藤 奈央
刈谷		衣浦小	河治 真未
みよし		黒笹小	中野 茉友
幸田	幸田小	富田 純華	
音楽(小)	岡崎	甲山中	因田佳乃子
	岡崎	常磐中	近藤 雄介
	豊田	朝日丘中	古田 繭
	豊田	足助中	松井 春花
音楽(中)	高浜	高浜中	古鷹 佳奈
	幸田	豊坂小	成瀬 美里
	岡崎	甲山中	杉山 美咲
図画工作	安城	東山中	横山 夏葵
	西尾	西尾中	土谷 萌佳
	西尾	吉良中	竹内陵太郎
	幸田	北部中	野崎加代子
	豊田	九久平小	石田和可奈
美術	岡崎	甲山中	河合 巧
	西尾	鶴城中	久松 真理
	西尾	寺津中	橋本 幸
	西尾	幡豆中	飯島 一喜
	高浜	高浜中	笥 峻斗
	高浜	南中	織田 楓
	田原	福江中	太田 健司
	北設楽	設楽中	澁谷 春佳
	岡崎	男川小	末吉 溪人
	岡崎	岡崎小	中根 大登
技術・家庭	岡崎	六名小	豊田 操平
	岡崎	常磐南小	小柳 直希
	岡崎	矢作北小	山本 悠司
	岡崎	六ツ美南部小	小幡 隆洋
	豊田	山之手小	高久 幹雄
	豊田	高嶺小	中野 陽介
	岡崎	岡崎小	中野 陽介

研究領域	郡 市	学校名	氏 名
体育	安城	祥南小	榎村 俊哉
	安城	梨の里小	鈴木 香織
	西尾	三和小	黒部愛里咲
	知立	猿渡小	谷口 真美
	豊橋	羽根井小	藤木 裕士
	田原	福江小	森下 創史
	岡崎	城北中	安藤 綾真
保健体育	刈谷	刈谷南中	久貝 愛美
	豊田	豊南中	古畑 佑樹
	西尾	西尾中	土屋 開
	西尾	東部中	浅野 市帆
	西尾	吉良中	久米 映旗
	高浜	高浜中	神谷 淳一
	幸田	幸田中	山本 泰暉
	幸田	南部中	金子真奈美
	北設楽	設楽中	石田千佳子
	岡崎	美合小	磯貝 優花
外国語活動	田原	伊良湖岬小	鈴木 阜平
	岡崎	矢作北中	繁原 悠太
	豊田	若園中	佐野 史幸
	安城	東山中	奥平 鈴菜
	西尾	鶴城中	中野 翔棋
	幸田	幸田中	鈴木 貴大
	幸田	北部中	山崎 亜美
外国語	豊橋	南陽中	小澤 和也
	蒲郡	塩津中	渡邊 実桜
	北設楽	設楽中	鈴木 貴大
	北設楽	津具中	金田 恵実
	安城	桜井小	片岡いずみ
	高浜	翼小	中田真莉菜
	豊川	赤坂小	鈴木 志歩
生活	岡崎	竜美丘小	鈴木 幸太
	岡崎	藤川小	稲垣 拡大
	豊田	平和小	内田 智子
	豊田	浄水北小	高野 夕貴
	安城	安城南部小	安藤 早織
	高浜	吉浜小	神谷茉里子
	高浜	吉浜小	吉原 大貴
道徳(小)	岡崎	形埜小	向井 麻由
	岡崎	下山小	平松 沙季
	豊田	中金小	泉 友理
	西尾	白浜小	齋藤 玲菜
	北設楽	東栄小	熊谷 奈実
学校保健(小)	蒲郡	塩津中	傳田 陽香
学校保健(中)	岡崎	男川小	辰己 沙羅
	岡崎	美合小	池田 康江
	豊田	駒場小	米山 美咲

## <3年次>(10名)

研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
国語	刈谷	住吉小	吉村 睦	自ら探求し、仲間と共に未来をよりよくしようと行動する子ども
社会	蒲郡	形原北小	近藤 祐輔	主体的に他者とかかわりながら追究し、動き出す子
	蒲郡	中部中	山本 佳範	社会的事象に関心を持ち、課題に対して主体的に追究し、学び合う生徒の育成
数学	蒲郡	中部中	原田 樹一	自ら動き出し、追究し続け、ともに高め合う生徒の育成
理科	岡崎	小豆坂小	永田 祥晃	「STEAM教育」による地域社会で育てる理科学習
	西尾	鶴城中	古澤 知幸	自然から課題を見出し、かかわりを通して考えを深められる生徒の育成
	新城	千郷中	酒向 和希	自分と仲間の考えを大切に、学び続ける生徒を育む理科学習
技術・家庭	豊田	竜神中	清水 悠生	技術を継承し、持続可能な社会を目指す生徒の育成
外国語活動	岡崎	上地小	天野 圭祐	主体的に追究する児童の育成
総合的な学習	豊田	則定小	加藤 大智	ICT機器を活用して主体的に郷土のよさを発信し、郷土に誇りをもつ子どもの育成

### Research result report

## 研究成果論文提出者の紹介 (令和元～令和3年度の研究)

令和元年度を研究1年次として、令和3年度までの3年間、着実に研究を推進され、成果を見事に論文として提出された9名の先生方を紹介します。

#### 国 語

知立・知立小 来川 知裕

豊かな想像力を持ち、思いの伝わる表現を探究する子の育成

#### 体 育

田原・泉小 石川 雄一

互いの立場を尊重し、だれもがのめり込む体育の授業

#### 国 語

岡崎・額田中 三井 靖子

言葉や表現にこだわり、読みを深める生徒の育成

#### 保健体育

岡崎・竜南中 松本 良太

保健体育科の見方・考え方を働かせた深い学びの構築

#### 数 学

蒲郡・蒲郡中 保浦 哲晴

自らの問いを追究し続ける生徒を育成する数学授業

#### 外国語

刈谷・刈谷東中 神谷 健人

英語で表現することに自信を持ち、英語で伝えることの楽しさを実感できる生徒の育成

#### 音 楽

安城・桜林小 伊吹 拓実

生活の中にある音や音楽に耳を傾け、仲間と関わりながら音楽表現を楽しむ子の育成

#### その他(へき地・小規模校)

豊田・朝日丘中  
(足助小) 清水 洸希

未来に向けてチャレンジ!!小規模校の特性を生かした活動を通して、自ら考え、ふるさとの自然や歴史・伝統を守り育てていこうとする子どもの育成

#### 体 育

附属特別支援学校  
(岡崎・竜美丘小) 加藤 雅也

他者との運動経験を通して、見方・考え方を働かせる体育学習を目指して



研究領域	郡 市	学校名	氏 名	研 究 主 題
算数	西尾	一色中部小	山崎 美里	友達と関わる中で、互いの考えを深められる子をめざして
	知立	知立東小	金原 正季	問題解決に向けて意欲的に追究し、自分の考えをよりよくしようとする児童の育成
	田原	田原東部小	高瀬 隼人	主体的に学び、考えを深めることができる子どもの育成
数学	岡崎	矢作北中	大原 洋平	主体的に取り組み、対話を通して考えを深める生徒の育成
	幸田	幸田中	牧野 築	ICT機器で互いの考えを共有して教え合い、問題解決への理解を深めながら仲間と協同的に学び、高め合う生徒の育成
	蒲郡	中部中	鈴木 巧人	仲間とかかわり、自分の考えを広げ深めることができる生徒を育てる数学学習
理科	岡崎	岩津小	小川 昇汰	理科授業における主体的・対話的で深い学びの実現
	蒲郡	蒲郡南部小	安田 晃治	地域を愛し、地域とともに未来を育む子の育成
	幸田	幸田中	渋谷悠里菜	身近な科学事象に問題意識をもって追究し、ICT機器を活用しながら自らの考えを表現し深めることのできる生徒の育成
	新城	新城中	神谷 健輔	自ら問題を見だし、主体的・対話的に課題解決ができる子どもの育成
音楽	岡崎	福岡小	服部 晃峰	感じ取ったことを仲間とともに考え、表現することの喜びを感じることができる児童の育成をめざして
	岡崎	南中	坂井 滉平	他者と関わり合いながら、音楽的な見方・考え方を働かせて学習する生徒の育成
	豊田	朝日丘中	福田 真美	地域と連携した郷土芸能の体験活動を通して、地元の伝統芸能に愛着をもつことのできる生徒の育成
技術・家庭	豊田	豊南中	櫻井 笙乃	食品の生産から消費までを見直し、健康や環境に配慮した食品の選択・活用ができる生徒の育成
	西尾	一色中	青木 真衣	家族との関わりを大切に、自ら課題解決に向かう生徒の育成
体育	岡崎	根石小	山本慎太郎	運動の楽しさに触れ、主体的に取り組む体育科の授業
保健体育	幸田	幸田中	高須 優典	仲間と共に学び、意欲的に活動することのできる生徒の育成
外国語活動	安城	今池小	杉浦 稚子	子どもの興味を引き付ける外国語活動
外国語	豊田	前林中	小柳津和久	ICTを活用しながら、自ら調べたことをもとに英語で対話することのできる生徒の育成
	西尾	鶴城中	山本夕莉佳	自信をもって活動できる生徒の育成
	西尾	東部中	大河原啓豪	主体的に即興で『やり取り』できる生徒の育成
生活	西尾	横須賀小	安藤 優里	児童の気付きの質を高める振り返り活動の工夫
	田原	伊良湖岬小	藤江 優子	思いや願いをもって「ひと・こと・もの」と関わり、気付きの質を高め、表現する子の育成
道徳	豊川	天王小	菊池 景子	あたたかな人間関係の中で、対話を通して、主体的に学びを深める子の育成
	刈谷	雁が音中	木尾真智子	様々な視点から『共生』について考える道徳授業
学校保健	新城	新城小	夏目 香	自分の生活習慣をふりかえり、目の健康課題に気づき解決しようとする子の育成
特別支援教育	岡崎	連尺小	木里 悠乃	感情を表現する活動を通して、自分の気持ちを深め、よりよく生活することができる子どもの育成
	蒲郡	蒲郡東部小	小田 恭子	特別支援教育における、見直しを意識した活動と教師の支援
	豊田	豊南中	岡本帆乃香	反復学習の中で高次の課題に気付き、解決策を講じることのできる生徒の育成
総合的な学習	豊田	根川小	中野 絢平	互いを認め合い相手のことを考えて行動することができる子の育成
	豊田	根川小	三浦健太郎	論理的思考を働かせながら、自分を見つめる子の育成
	安城	桜井中	手嶋里栄子	自分の周りで起きていることに興味を持ち、他と協働して、学校・社会・世界をよりよくしていこうとする生徒の育成
情報教育	岡崎	生平小	石谷 遼一	ICTを活用した主体的・協働的な学びを通して、学びを深める子の育成

### ● 2年次・3年次申請の選考を終えて ●

2年次助成対象者を200名の中から50名、3年次助成対象者を50名の中から10名選考しました。実践を積み重ねてきた継続的な研究内容から、大きな成果が得られていることがわかります。子供を主役に据え、子供に粘り強く寄り添う取組から、確かな変容が読み取れます。研究主題の具現化に向け、教材研究にもとづいた様々な手立てを構築する教師の姿勢から、実践への熱意を感じます。ICTの有効活用に向けた新たな試みも積極的に取り入れられています。コロナ禍で制約がある中、研究実践に前向きに取り組まれていることがよく伝わってきました。今後の研究の深まりにさらなる期待が膨らみます。

選考審査において気づいたことを次に述べます。参考にいただければ幸いです。

・子供の実態を的確に捉えた上での手立てが、工夫して設定

### 審査委員会副委員長

されています。授業者のセンスが光ります。今後は、記録や資料にもとづく検証を通して、子供の変容をより丁寧に記述することで、研究の成果がさらに明確になります。

- ・地域に密着した教材を生かした実践が多くみられました。地域に関わる「人・こと・もの」を活用し、子供の意欲をよく引き出しています。そのとき、各教科・領域の学習内容やねらいとの関連をより明確にすることで、さらに説得力のある論述になります。
- ・今求められている「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適化学び」、「協働的な学び」が具現化されています。三河の教育が積み上げてきた、子供一人一人を大切に実践が生かされていると感じます。めざす姿をより具体的にすることで、成果と課題が明確になり、さらなる実践の展開が期待できます。

# 文振だより



## コンクール関係

みかわ彩発見絵画コンクール（秋・冬の部）

応募期間 令和4年12月19日(月)～令和5年1月11日(水)

かきぞめコンクール

応募期間 令和5年1月4日(水)～1月6日(金)

作品展（絵画・かきぞめ同時開催）

展示場所 三河教育会館

展示日時 令和5年2月3日(金)・2月4日(土)

午前9時30分～午後3時30分

優秀作品表彰式／令和5年2月5日(日)



## 使用報告・刊行物注文締切

◇使用報告／冬休み日誌、かきぞめ手本、硬筆用紙、賞状  
令和4年12月6日(火)～8日(木)

◇令和5年度版刊行物第1期当初注文／  
令和5年1月6日(金)～16日(月)

□刊行物モニター研究調査報告締切／  
令和4年11月25日(金)

□教育図書出版助成申請締切／  
令和4年12月5日(月)

□郡市教育・研究助成、学校教育ボランティア助成等  
報告締切／令和5年2月28日(火)



## 文振刊行物 教師用PDF版の活用は進んでいますか

本年度4月より一部の刊行物において、教師用PDF版を従来の紙媒体とともに配信しています。その活用例を紹介します。

来年度は全学習類(小学校)・全演習類(中学校)の教師用から紙媒体がなくなり、PDF版のみとなります。よろしくお願いいたします。

### 「教師用PDF版」活用事例

#### 「せいかつかノート」の場合

・児童用せいかつかノートを大型モニターに提示して、児童の目線に立って書き方の手本を示す。

#### 「数学演習」の場合

・単元導入時に、下学年のS・Lプリントから関係する問題を抜粋し、生徒のタブレットに送信して実施する。生徒実態を把握し、指導に活かす。

#### 「数学の友」の場合

・購入した「数学の友」を家庭学習用として家に置く。授業では当該問題を生徒のタブレットに送信して実施する。そうすることで用具の軽減を図る。



## 刊行物紹介

刊行物  
「ひらがな・  
かたかな」で  
きれいな文字を！



### 1 教科書準拠で、教科書で学ぶ順に新出文字を学ぶことができます

- ◆書き方のポイントをおさえるため、全てのページに「めあて」を記載しています。
- ◆ていねいに書き始める習慣を身に付けるため、書き出す箇所に「**マーク**」を記載しています。
- ◆自己評価ができるよう「**ふりかえる**」で学びの確認をします。
- ◆お手本を見ながら練習ができるよう、お手本を左側に並べて記載しています。

### 2 QRコードからの動画で正しい文字の書き方を学ぶことができます

- ◆「シ」「ツ」など、形の取りにくい14文字について、**動画で書き方**をわかりやすく示しています。
- ◆家庭学習でも正しい書き順や正しい文字の形を学ぶことができます。



サンプル  
動画

### 3 三河各地区の先生方が編集委員となって編集する安価で安心の教材です

- ◆一冊**290円**、来年度も頒価据え置きで販売します。
- ◆**三河4地区で公費採用**されています。多くの新入学児童が「ひらがな・かたかな」を使って文字を学んでいます。

※詳しくは、愛知教育文化振興会へお問い合わせを。

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

教育と文化

令和4年11月1日号  
No.130

発行／公益財団法人愛知教育文化振興会  
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1

TEL 0564-51-4819  
https://www.bunsin.org

